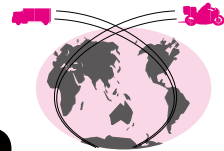


# 新たな公共交通：カーシェアリング(1) 米国における 電気自動車シェアリング Car2Go



## 公共交通とは

公共交通とは、一般的に鉄道、バス、航空機、船舶など不特定多数の人々が利用する交通機関を指します。クルマで言えば、タクシー（乗合タクシー含む）も不特定多数の人々が利用するという点においては公共交通の部類に入れてもよいでしょう。

では、カーシェアリングはどうでしょうか？ カーシェアリングとは、登録を行った会員間で特定のクルマを共同利用するサービスのことで、クルマを借りるという点ではレンタカーと同じですが、会員登録していないと利用できず、利用できるクルマも限定されている点がレンタカーと異なります。

カーシェアリングは、そもそもヨーロッパで非営利団体を運営主体として、鉄道やバスを補完するものとして生まれたものです。日本でのカーシェアリングの認知度や浸透度は今一歩ですが、欧米でのカーシェアリング事情はどうなっているのか、米国、ドイツ、フランスをとりあげて順次レポートします。

## 米国におけるカーシェアリング

自動車大国である米国では、Zipcarなど26の事業者がカーシェアリングを運営しており、カリフォルニア大学Shaheen教授の調査によると、会員総数は81万人、カーシェアリング台数は12,600台になるといいます。同教授によると、米国・カナダのカーシェアリング会員数は近年急拡大しており、2012年の統計では全世界の51%（欧州は39%）をこの2か国で占めるまでに成長しています。多くの事業者が、日本と同様に決められた駐車場所（ステーション）でクルマを借りて元の場所に返却するシステムを採っていますが、ダイムラー社が運営するCar2Goは指定されたエリア内の路上に返却できる「乗り捨て」方式を採用しています。しかも電気自動車でカーシェアリングを行なっています。そこ

で、Car2Goが導入されているカリフォルニア州サンディエゴを訪問し、電気自動車シェアリングを体験してみました。

## 電気自動車シェアリング「Car2Go」

Car2Goは、ドイツ・ダイムラー社がSmartという二人乗りの電気自動車を使って欧州（ドイツ、オーストリア、英国、オランダ、フランス）や北米（米国、カナダ）で展開しているカーシェアリング事業です（欧州では主にガソリン車のSmartを使用）。米国においては、2010年のテキサス州オースティンを皮切りに、現在では次の表の6都市で導入されています。

サンディエゴでは約300台が稼働中であり、どの場所に空きのクルマがあるかパソコンやスマートフォンを使ってリア

図表1 米国での Car2Go 導入状況

都市	サービス開始時期	運営台数
テキサス州 オースティン	2010年 5月	約300台
カリフォルニア州 サンディエゴ	2011年11月	約300台
ワシントンDC	2011年12月	約300台
オレゴン州 ポートランド	2012年 2月	約250台
フロリダ州 マイアミ	2012年 7月	約200台
ワシントン州 シアトル	2012年12月	約300台

図表2 Car2Go サンディエゴのホームページ



ルタイムでわかります(図表2)。

そもそもカーシェアリングは会員制のため、米国非居住者が利用できるのか心配でしたが、メールで問い合わせると国際免許証とクレジットカードがあれば登録できるということで、早速申し込み、現地に行った際に会員証を受け取りました。なお、登録料は35ドルで、会員資格は脱会するまで半永久的に有効です。また、利用の都度、図表3の利用料が登録したクレジットカードから引き落とされます。

図表3 Car2Go 利用料

1分当たり	0.38ドル
1時間当たり	13.99ドル
1日当たり	72.99ドル

Car2Goは定まったステーションがないため、利用するには、まず空きのクルマがどこにあるかをスマートフォンで検索します(写真①)。サンディエゴ市内であれば徒歩10分以内のところにはまず見つかるので利用にあたっての不安はありません。



写真① スマホでクルマの位置を確認

目指すクルマを見つけたら、フロントウィンドウの認証器に会員証(ICカードになっている)をかざすと、車のロックがはずれます(写真②)。



写真② Car2Goの認証器

運転席に座り、正面の操作パネルに4ケタの暗証番号(登録時に設定した番号)を入力し、いくつかの質問に回答します(写真③)。

この段階で操作パネルに差し込んであるキーが取り出せるようになるので、キーシリンダーに挿し込み、キーを回

すと準備完了です。バッテリーの残量計が設置されています(写真④)、フル充電で約130km走行可能であり短距離利用であればバッテリー切れを心配する必要はまずありません。



写真③ 操作パネル

使い終わったら、駐車禁止場所以外の路上にクルマを止め、上記の逆の手順を行います。サンディエゴでは基本的に道路脇に無料駐車が可能のため、「乗り捨て」方式が成立するのでしょうか。借りた場所に戻す必要がなく、路上に「乗り捨て」できるので非常に利便性が高いと感じました。



写真④ バッテリーの残量計

## カーシェアリングは公共交通の一形態

では、冒頭のカーシェアリングは公共交通と言えるかという問題提起に戻りましょう。まず一般的な公共交通の定義である、不特定多数が利用するものかという論点です。Car2Goの利用には会員登録が必要ですが、所定の登録費用さえ払えば誰でも会員登録が可能であり、サンディエゴの場合、会員登録人数が18,000人に上り、約300台のクルマを共同利用していることから、十分に公共性があると言えるのではないのでしょうか。さらに、公共財である道路に「乗り捨て」できる仕組みが出来上がっていること、電気自動車の充電に必要な充電ステーションは連邦政府補助を受けて設置されていることを考慮すると、ますます公共性は強まっています。サンディエゴのカーシェアリングは「自分で運転する廉価タクシー」と言ってもいいのではないのでしょうか。クルマの持つ機動性を活かした、新しい公共交通の形態だと言えます。